

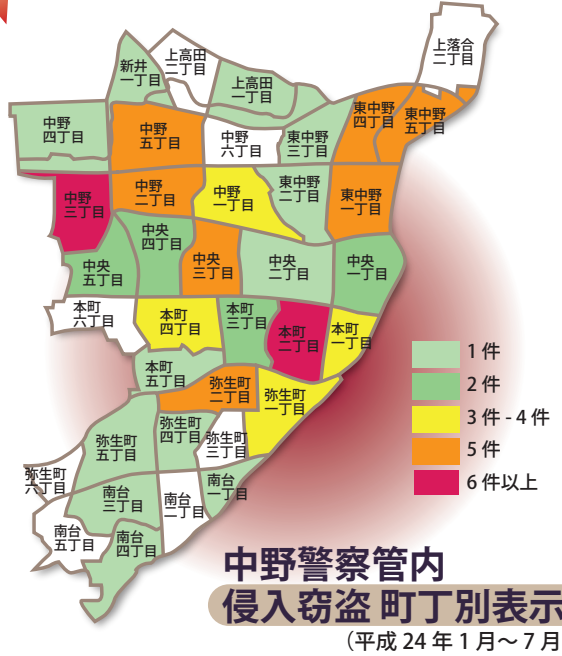


橋本 武 71歳

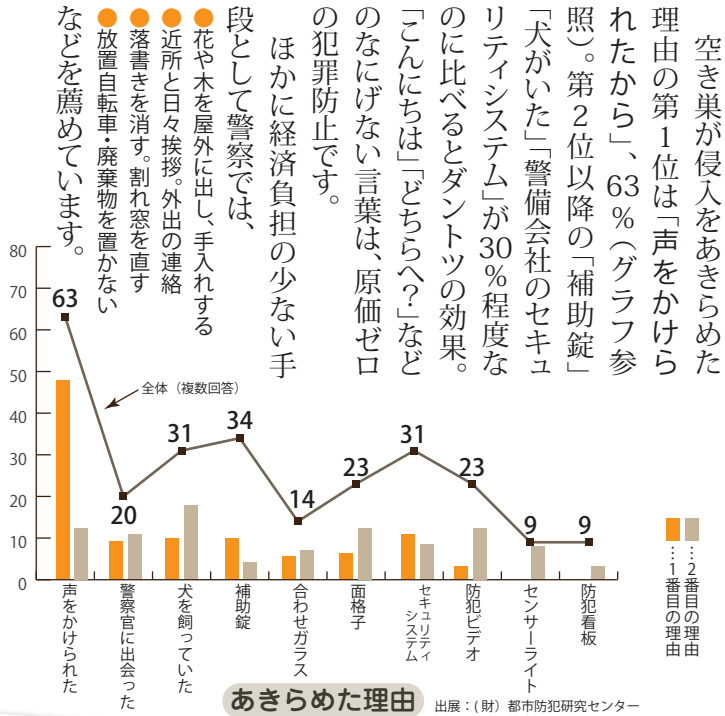
空き巣 vs. ご近所力

中野警察署管内での空き巣被害は昨年136件。特に東中野地区で多発しています。集合住宅の2階以上の被害も増えているそうです。「泥棒の弱点は、音と光と近所の目」―地域の人の目が防犯力です。

東部地区では日ごろから各町会や東部ボランティアによる防犯パトロールや美化活動が行われ、年末にはその活動も強化されます。外出も訪問客も増える年末、隣近所でもまめに声をかけ合って「泥棒が仕事をしにくい地域」にしていきたいと思います。



「こんにちは」の声で罪を犯させない



はなみずき

発行 東部区民活動センター運営委員会
〒164-0011 中野区中央2-18-21
TEL 3363-0631
FAX 3363-0632

2012.12.15 第7号

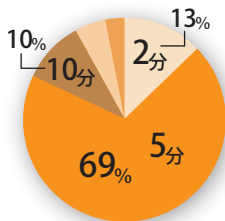
防犯推進員講習会

窓の補助錠で時間をかせよう

10月11日に中野警察署において防犯活動推進員講習会が開かれました。防犯協会から5年ごとに委嘱される防犯活動推進員は、町会ごとに約30人、中野区全体では1600人もおり、防犯の啓発に努めています。

講習では侵入をあきらめさせる方法も学びました。「5分かせれば、侵入をあきらめさせられる」。侵入か断念かのタイムリミットは、「5分」と答えたのが7割。➤

10分かかる窓なら9割があきらめるそうです。窓ガラスにフィルムを貼ったり補助錠をつけるのが効果的とのこと。オートロックも、開けられることがあり油断大敵。侵入犯およそ1500人の25%は若者だが、半数は高齢者であるという意外なデータも紹介されました。



侵入をやめるまでの時間

空き巣の狙いはバルコニー



Y.A

今、こんな泥棒はいません

秋の夕暮れ。東中野2丁目のマンション2階。帰宅した部屋は、いつもの静寂。異変など感じなかったが……。『ん?』。ぎくりとしたのは、和ダンスの前に落ちた紙を見た瞬間。ゆるんだ扉を開けるため、かましてあった紙だ。

ダンスを開けると嵐のあと。和紙の箱も子どものお土産の財布も無残にちぎられて。別の場所に隠した20万円は、あとかたもなく持ち去られていた。

床には運動靴の跡。警察の調べでは、犯人は大久保通りに面した

2階バルコニーへハシゴをかけて登り、窓を小さく割って侵入したらしい。バルコニーに面した住戸が軒並み被害にあった。

まだ明るい大久保通りに、ハシゴの泥棒? 警察は「作業員風の服装だったのではないか。風景にとけ込んでいたので通行人も気づかなかったのだろう」と話したそう。

これは3年前の事例ですが、中野署生活安全課によると、この夏の空き巣も、ほぼ同じパターン。集合住宅の長いバルコニーが狙われています。



Y.A

風景にとけ込んで

コラム

なかま



大石直臣

日本写真文化協会会長
本三宮前町会副会長

近頃思うこと

私は昭和34年、父が創業した大石写真館に就業し、以後この道筋に歩んできました。スタジオでの仕事のほか、近隣小・中学校の写真にも関わり、写真を通じて多くの児童生徒とふれ合うことができ、幸せな人生であることを実感しています。東日本大震災の惨禍の中で、写真の価値が見直され、思い出や家族の絆につながる写真の力が認識されるようになり、写真を職業とする喜びも味わっています。

私は現在、一般社団法人日本写真文化協会会長の任にあり、協会では、写真館の社会に於ける公益性、いわゆる企業の社会的責任(CSR)を強調しています。一方、桃園小学校・中野第十中学校でPTAに関わったことから、今でも教育問題に深い関心があります。そして、教育現場での問題の多くは地域と家庭の教育力の減退にあると感じています。家庭が団欒の場でなくなり、定時性住人の宿泊所になり下がってはいないでしょうか。「子は親の鏡」「子は親の背を見て育つ」と昔から言われています。今こそ親業訓練が大切だと思えます。現PTAの皆さんの奮起に期待する次第です。

(大石氏は今春「旭日双光章」を受賞されました。)

東部の〇〇 第7回

60歳を迎える「僧兵行列」

立春の前日にあたる節分には、「鬼は外、福は内」と言いながら豆をまき、邪気を払い福を招く習慣があります。東部地域にある明王山宝仙寺での節分会は一味違った趣があります。ご存知でしょうか。

このお寺は、平安時代後期、源義家により阿佐ヶ谷の地に創建され、室町時代、中興第一世・聖永が現在の地に寺基を遷し、現在に至っています。江戸初期には三重塔が建立されて庶民に親しまれ、將軍お鷹狩りの休憩所としても有名でした。

戦後、焼失した寺の復興・再建の際、僧兵が用いていたと思われる遺物が発見されたため、昭和28年から節分行事にあわせて僧兵行列を行い、僧兵の姿を再現することになりました。

2月3日の午後3時半、僧兵姿に扮した年男・檀信徒ら数十名が、中

央2丁目の通称三角公園隣にある

明徳稲荷神社を出発、青

梅街道を通り宝仙寺ま

でを練り歩きます。その

後、本堂前庭にて柴燈大

護摩供(さいとうおおこまく)を執り

行い、4時半頃から豆ま

きをします。みなさんも、

勇壮な行列を見物し、無病息災を願い、福をも

らいにいらつしやいませんか。



詳しくは宝仙寺ホームページをご覧ください。http://www.housen.org/

なお、僧兵行列に参加、また、護摩木・護摩札をご希望の方は、宝仙寺までお問い合わせください。

講演会

人生100年!

すべての人に居場所と出番を



樋口恵子氏

「高齢化社会をよくする女性の会」代表
東京家政大学名誉教授

今や人生100年時代。中年からの人生が2倍に伸びた社会です。

私たちはその初代。覚悟が必要です。大切なことはだれにも安心できる居場所があること。そして誰もが個性を発揮し、世の役に立つ出番があること。そんな生活を地域の中につくりましょう。

日時●平成25年3月16日(土)14:00~16:00

場所●東部区民活動センター 洋室3・4号

定員●先着80名 入場無料 申込不要
一時保育 5名まで 申込〆切3月8日(金)

主催●東部区民活動センター運営委員会

問合せ●運営委員会事務局 3363-0631

総合防災訓練

東部地区3万人の命運かけて
十中で区総合防災訓練

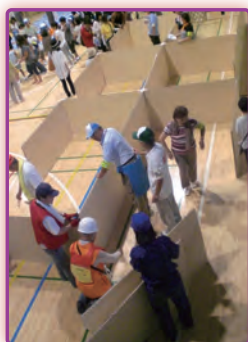
「中野区、震度6強」を想定して、区総合防災訓練が9月2日、第十中学校を会場に実施されました。町会、小中学生など一般660人、消防などの関係機関を含めると919人が参加。自分たちの避難所をどう開設し運営するかを学びながら、応急手当や消火訓練を体験する予定でしたが、豪雨に襲われて後半の日程を断念しました。

どうにか予定通りにできたのは避難所誘導と避難所開設、訓練としては間仕切り設営と救護訓練でした。救護訓練では、日赤東部分団の指導のもとで、AEDの使い方のほか、新聞紙や雑誌を利用した添え木や、毛布と2本の棒を使用しての担架づくりなど、非常時にこそ役立つ救護法を学びました。

東部ボランティアが新規購入した車いすは、障がい者とのふれあい体験に活躍しました。準備していた炊き出しは、米を水に浸し始めたところで中断。火起こし担当の谷戸おやじの会の小林正代表は「非常に、非常に残念です」と繰り返ししていました。

閉会式では、医師会の武純医師が「自分だけ先に助けてくれ、などと騒ぐ人がいると、全体の搬送が遅れます。みなが顔見知りになり、『あの人があひどいから先に運んで』と機能しないといけない。お祭りがしつかりやれる地域は死者が少ないものです」と結束を訴えました。

間仕切り設営訓練



堂々の8部屋完成



組み立て図と部品があいせんねえ



これが壁をつなく部品ね

後日、T字形のジョイント部分が、別の段ボール箱に入って倉庫に置かれていたことが、明らかになりました。部品を欠いても強引に完成させた知恵と腕力。破たんしかけた夏休みの自由工作を、力づくで仕上げて提出させてきた日本の親たちの底力をここに見ました。

大災害が発生した時、最初に避難所につけるのは区や学校の職員とは限らないため、「だれが鍵を開けるのか」などのトラブルが想定されます。迅速に避難所が開設できるように、あらかじめ地域・学校・行政の3者が運営会議をつくり、鍵や物資の場所・使い方・連絡方法などのルールを共有しています。

塔山小学校 なかよし清掃

10月13日(土)晴天のもと、320名の生徒、12名の東部ボランティアが参加し、地域清掃活動が実施されました。

この活動のねらいは、清掃を通して、地域の活動に貢献するとともに、安全で規律ある行動がとれるようにする。1〜6年が12のなかよし班に分かれ、縦割りの交流を図ることです。



先生を先頭に、児童、最後にボランティアが安全確認をしながらつき、通学路のゴミを拾い、学校に戻りゴミを分別して終了しました。子どもたちはゴミの少ないきれいな町を改めて感じたことと思います。

編集後記

子育ては大変? いえいえ子育て後半からうけたまわる学校と地域のボランティアは、もうワンランク大変。思春期には「私傷つかないのダイヤモンドだから」と信じてましたが、いまは「私止まらないの歯車だから」。しかし先輩たちのハガネの歯車ぶりをみるにつけ、もちっと回らなきや。目標のある生活に感謝です。(J.S)



Y.A